



あせらず急がず

の愛に感謝しながら、身についた家族への甘えという綿を抜くという意味から「わたぬき」とも読めるのかもしれない。

「向こうの山のとっぺんまで駆けっこをしましょう」。

カメを相手にウサギは跳んで駆けていき、油断して山の麓で一眠りします。休まずコツコツ進んだカメが最後は勝つという「イソップ童話」です。おとぎ話に限らず現実のレースでも着実に歩んだ者が勝ちます。

茨木のり子さんに「時代遅れ」という詩があります。「車がない パソコン インターネット 見たこともない(略) そんなに情報集めてどうするの そんなに急いで何をするの」。

情報に振り回されることなく周りに惑わされることなく、焦らず急がず船出してほしいと思います。「人生大変だけど、楽しみながらガンガン行こう」。私からのエールです。



指宿市長
豊留悦男

空をゆく ひとかたまりの花吹雪 (高野素十)
満開のサククラに強風が吹いて花吹雪が見られる頃です。花冷えのせいか、ソメイヨシノは散り急ぎもせずに、清楚な色をたたえて咲き残っています。

5日は二十四節気という清明。八重桜や沈丁花のかぐわしさに続き、ニセアカシアやライラックの強い芳香が街を春色に染め、霞む山の姿や芽吹きの色と共に、心をウキウキとしてくれる時季です。

4月1日、多くの企業で入社式が行われます。県内の大手企業の社長さんの訓示を緊張した面持ちで聞いている入社式の様子が新聞などで紹介されています。若者に呼び掛ける言葉の数々に、新社会人として赴任した頃を思い出し懐かしく思っています。

「諸君、人生って大変なんだ!」「3年は黙って働け」「他ツトモナイことをするな」「他

人に迷惑をかけるな」「失敗しても、クヨクヨせず朗らかに、キツパリ謝れ」作家・山口瞳さんの新社会人に贈る言葉です。「品性はよくなければならぬ」「少しは酒を飲め」「酒は愉快に飲め」「酒の上の失敗を恐れるな。ガンガン行け!」激しい中にも思いやりに満ちた数々の言葉に、多くの新入社員が励まされたようです。

4月1日。読み方のむずかしい姓のひとつに「四月一日」があります。昔の人は陰暦の4月1日、表地と裏地の間から綿を抜いて衣替えをしたことから「わたぬき」と読むようです。

綿入れを着ると言っても、今の若者には理解できないかもしれないかもしれませんが、昔、寒さの厳しい時期に母親の綿入れに包まり、すやすや眠る子どもの姿をよく目にするものでした。

進学・就職と旅立ちの時、見返りを求めない母親の無限